

第6学年1組 図画工作科学習指導案

研究主題

つくりだすことに熱中する図画工作科学習
～対象との対話を重視しながら、自分らしく表現できる子どもの姿を求めて～

1. 題材名 墨から生まれる世界 [A表現(1)造形遊び①, (2)絵①]

2. 指導観

○ 本学級の子どもは、図画工作科の時間を楽しみにしており、自分の思いをもって活動できる子どもが多い。1学期に学習した題材「わたしのお気に入りの場所」では、自分のイメージをよりよく表せるように色使いや筆使い、構図などを工夫して、お気に入りの場所を絵に表しながら描く楽しさを味わっている。題材「いろどり、いろいろ(形と色でショートチャレンジ)」では、絵の具以外の材料や筆以外の用具のいろいろな使い方を繰り返し試して表したいものを考え、形や色のおもしろさを十分に味わっている。活動の過程においては、友達の表現のよさや工夫に気づき、自分の活動に取り入れたり、鑑賞では友達の作品のよいところを具体的に言葉で伝えたりできる。7月に実施したアンケートでは、「時間を忘れて夢中になる」と答える子どもが多く、つくりだすことに対する意欲が大変高いと言える。しかし、「作り方や表し方を工夫する」ということに関してはやや低く、発想や構想の段階で思うように活動が進まなかったり、友達と似たような作品になったりする姿も見られ、自分の表現に十分満足できていない実態がある。このような実態から、さまざまな用具を使ってできた形や墨の濃さなどをいろいろ試したり、友達との関わり合いを通して、自分のイメージを広げたり、表現の仕方や工夫する楽しさや喜びを十分に味わいながら自分らしい表し方を追求できるようにしたいと思い、本題材を設定した。

※ 図工に関するアンケート結果(7月実施)

質問項目	そう思う	どちらかと言え ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない
普段の生活で絵を描くことはありますか。	80%	16%	0%	4%
時間を忘れて夢中になりますか。	88%	4%	8%	0%
作り方や表し方を工夫することは好きですか。	48%	32%	16%	4%
友達の作品のよさを見つけることができますか。	56%	28%	12%	4%

○ 本題材は、墨や用具の特性を味わいながら画面に表すことを通して、心を開いて主体的に表現する力を培うことをねらいとしている。墨は書写で文字を書く馴染み深い材料ではあるが、絵の具代わりに使うことは新鮮で、興味をもちながら墨の濃淡や明暗、描線のスピード、にじみ、かすれなどの表現のよさや美しさを味わい、和紙に筆と墨でいろいろな描き方を試みながら工夫することができる。また、墨の香りや和紙に墨で描く快さ・楽しさなどを十分に味わうことができる題材である。この題材で体全体を使って思いを十分に作品に表したり、五感を使ってダイナミックに表現したりすることが期待できる。大きな和紙と墨、さまざまな用具を準備して子どもの豊かな発想を引き出し、意欲的に活動できるような学習環境を整え、これまでに経験した方法や新たに獲得した方法で、自分の思いを豊かに表現させていきたい。

○ 本単元の指導に当たっては、以下の二つに重点を置くようにする。

<視点1> 題材設定や展開の仕方を工夫する視点から

① 題材設定の工夫について

子どもは、社会科「室町文化と力をつける人々」の学習で、雪舟の「水墨画」の魅力について触れ、水墨画が身近なふすま絵やかかけ軸などに使われていることを学習している。また、墨は、3年生から6年生の間に、書写で文字を書く経験をしている。そこで、墨を使って大きな和紙に絵を表すことで、興味をもちながら墨の濃淡や明暗、描線のスピード、にじみ、かすれなどの表現のよさや美しさを味わい、和紙に筆と墨でいろいろな描き方を試みながら工夫することをねらう。また、墨の香りや和紙に墨で描く快さ・楽しさなどを十分に味わいながらダイナミックに表現できるようにする。作品ができあがったら、体育館の壁に掲示し、「6年1組描画展」を開き、高蔵小のみんなを招待するというゴールを設定することで、相手意識をもってより意欲的に表現できるようにする。

② 題材との出会わせ方や展開の工夫について

「であう」段階では、墨との出会いを感動的なものにするために、参考作品を見て一人一人の自由な感想をとりあげながら墨を使った表現活動に対する関心を高める。墨のにじみ、墨のかすれ、墨の濃淡の工夫の3点の参考作品から、墨による表現の面白さに気付かせるようにするとともに、筆の種類や筆使いによって作品のイメージが違うことにも気付くようにする。墨から生まれる形や軌跡を大切に、組み合わせの美しさやおもしろさにも気付くことができ、自分たちも描いてみたいという思いを膨らませることができるようになる。

「みつける・あらわす」段階の導入では、体全体を使ってのびのびと楽しく面白さを伝えるために、大きな和紙を提示し、ダイナミックな表現活動への意欲を高めたい。また、体育館の広い空間でのびのびと表現活動ができるように場を設定し、開放的な雰囲気作りをする。子どもの周りにはけや筆など表現するための用具と、その用具を使って試せるように和紙を何箇所か置いておき、それぞれの用具を子どもが自由に試してみることができるようしておく。

「あじわう」の段階では、できた作品を体育館の壁に掲示することによって、大きな作品のよさや勢いや作品の特徴を感じやすいようにする。色の違った付箋を三色用意することによって墨の濃淡や動き、イメージという観点に目がいきやすく鑑賞を楽しみやすくする。

<視点2> 言語活動の場や方法を工夫する視点から

① 感じたことを共有する言語活動について

「であう」段階では、教師の参考作品を見て、自分の思ったことや疑問点を出し合い、墨の濃淡や表し方の違いに気付くようにし、墨を使った創作活動に興味をもつようにする。

「みつける・あらわす」段階では、個人の思いを大切にしながら、作品づくりのイメージを広げるために視点を明確にした話合いをさせる。さらに、描きながら、グループで意見交流させる。教室には、今までの創作活動での「言葉のパレット」に出てきた技法や言葉を掲示し、表現しやすい環境づくりを行う。

「あじわう」段階では、付箋（赤：墨の濃淡。青：作品の動き。黄：イメージ）を利用し、グループでのギャラリートークや全体交流での意見交換を取り入れることによって交流活動がより活発に行われるようにする。言葉や体を使った表現活動を通して感じたことを自分なりの方法で、のびのびと鑑賞したことを表現するようにしたい。そして、墨の作品のお互いの表現のよさや面白さを認め合い、表現する喜びをさらに高めていきたい。


② 対象との対話の積み重ねと学習評価の工夫について

「振り返りワークシート」は、一部写真を取り入れるようにする。また、短時間で記入できるカードをつくることで、活動の時間を保障しつつ、次時につながるように記録する。必ず、各学習のめあてが達成できたかを自己評価する機会をもち、その記述内容から子どもの思いを把握し、支援に生かす。鑑賞では、グループでのギャラリートークや全体交流での意見交換を取り入れることによって交流活動がより活発に行われるようにする。

4. 目標

知識及び技能	○ 黒と白の表現から、動きや奥行き、バランスを理解することができる。 ○ 墨や描材、用具の特徴を生かして表し方を工夫することができる。
思考力、判断力、表現力等	○ 墨の濃さや筆使いなどをいろいろと試しながら、表したいことを考えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 墨による表現の楽しさを味わい、主体的に新たな表現に取り組もうとしている。

5. 指導計画と評価計画（総時数5時間）

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 ◎ <u>主体的・対話的で深い学び</u>	評価規準および評価方法
であらう	1 教師の参考作品を見て、みんなで話し合う。① 	○ 感じの違う三つの作品を提示することによって材料や表し方の違いに気付くようにする。 ◎ <u>参考作品を見て、作品の印象や感じたことを自由に話し合い、墨を使った表し方の美しさやよさに気付き、やってみたいという意欲が湧くようにする。</u>	【態】墨を使った表現活動に興味をもち、墨を使った表現方法の楽しさや快さを味わおうとしている。 (行動観察・発言)

みつけ る・あ らわす	<p>2 身の回りの材料を道具として試しながら描き、材料の効果を言葉のパレットにまとめる。 ①</p> <p><描材づくり></p> <p>3 筆づくりをする。 ①</p>	<p>○ 画面の組み立てや墨の濃淡、にじみ・かすれなどの効果、墨の香りや筆で描いた時の手や体の感じなどに目を向けさせて気付きを引き出し、個人で描く楽しさを体全体で味わわせるようにする。</p> <p>○ 子どもが見つけた材料の効果を出し合い、言葉のパレットにまとめるようにする。</p> <p>○ 紙に描いた作品から、筆づくりの意欲を高める。</p> <p>○ 身近材料を利用して、効果を想像・期待しながら、筆づくりを楽しめるようにする。</p> <p>○ 随時、できた筆のかき味を楽しめるように、墨と和紙を準備し、お試しコーナーを設置する。</p>	<p>【思・判・表】墨による表現の効果を生かした描き方を考えたり、試したりしている。 (作品分析・行動観察)</p> <p>【態】いろいろな身近材料に興味をもち、材料のよさや墨による表現の効果を見つけようとしている。 (行動観察・作品分析・発言)</p> <p>【態】筆のかき味を想像しながら、楽しんで筆づくりをしようとしている。 (行動観察)</p>
	<p>4 墨と描材を使って、大きな和紙に絵を描く。 　　<本時 ①></p>	<p>○ 大きな和紙や描材を用意しておき、表現への意欲を高められるようにする。</p> <p>◎ <u>描きながら感じたことや思いを交流し合い、効果的な表現方法を工夫するようにする。</u></p>	<p>【知・技】自分の表したい感じが表れるように、墨や描材の扱い方を工夫し、いろいろ試しながら表そうとしている。 (行動観察・作品分析)</p>
あ じ わ う	<p>5 自分や友達作品を見て、作品のよさを話し合う。 ①</p>	<p>○ 子どもの作品を体育館に掲示して作品鑑賞会をする。</p> <p>○ 三色の付箋を用い、話し合いの観点を示すようにする。</p> <p>◎ <u>作品のもつ雰囲気やよさを味わうこ</u></p>	<p>【態】主体的に友達作品のよさや美しさを味わおうとしている。 (行動観察・発言)</p> <p>【思・判・表】墨の濃さや描</p>

	とができるように、互いに作品を鑑賞して自他のよさを発表できる場の設定を行う。	材の生かし方のよさに気付き、伝え合っている。 (発言・鑑賞カード・ 振り返りカード)
--	--	--

6. 本時の学習 令和3年11月17日(水) 第5校時 体育館




(1) 主眼 墨の効果や用具の扱い方をいろいろ試す活動を通して、自分の思いに合った描材を効果的に使って「墨の世界」を表現することができるようにする。

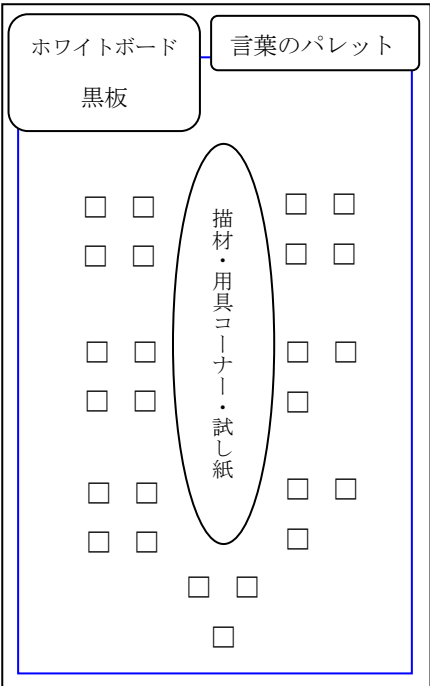
(2) 準備

① 教師 ブルーシート・墨・新聞・トレイ・器・ペットボトル・水・和紙・筆・たわし・歯ブラシ・綿・はけ・段ボール・スポンジ・発砲スチロール・タオル・ほうき・バケツ

② 子ども 水入れ・自作の筆・墨の濃さを調整しているペットボトル・振り返りカード

(3) 展開

	主な学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点【観点】評価規準(評価方法) ◎ 主体的・対話的で深い学び ★ 一人一人のつまずきへの支援のポイント
であう	<p>1. これまでの学習を想起し、本時のめあてを確かめる。</p> <p>(1)自分のやってみたい表現方法について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">めあて 自分の思いに合った「墨の世界」をつくろう。</div>	<p>○ 今日の学習でどんな描材を使ってどのように表現したいのかを引き出し、本時のめあてにつなげるようにする。</p> <p>○ 制作活動の時間を確保するため、導入段階はできるだけ短い時間で行う。</p> <p>★ 学習の見通しをもち、心理的な不安を和らげられるように、本時のスケジュールを視覚的に示すようにする。</p>
みつける・あらわす	<p>2. 墨と描材を使って、大きな和紙に絵を描く。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; width: 150px;"> <p>にじみを出したいけど、どうしたらいいかな。</p> </div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-right: 10px; width: 150px;"> <p>水の量を多めにし、濃い墨を調整すると、にじんでいくよ。</p> </div>  </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-left: 10px; width: 150px;"> <p>この用具や描材はどんな感じになるのかな。試してみよう。</p> </div> </div>	<p>○ 参考作品や「言葉のパレット」を提示し、本時の活動に生かせるようにする。</p> <p>○ スムーズに作業に取りかかれるように、墨や描材の使い方、作業での注意点を確認する。</p> <p>○ 「そのの表し方がいいね。」「どうやって表したの。」などと友達と対話しながら制作できるように、3人～4人グループで間隔を開けて活動できる場を設定する。</p> <p>○ 友達と交流することで、自分とは異なる見え方に気付き、さらに想像を広げている子どもを紹介することで、交流を促すようにする。</p> <p>○ 子どもが様々な表現活動を試みようとするように、試しの和紙や描材を数多く用意する。</p> <p>◎ <u>グループの友達と楽しく互いの作品を見合い、墨の濃淡、かすれ、にじみ、描材の動きの工夫について交流させること</u></p>

	<p>《設定した場の図》</p> 	<p>によって、自分の作品に活かせるようにする。</p> <p>★ 一人一人のつまずきへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 個別の対話や教師との共同活動をしたり、教師の提示による選択の機会をもったりして、本人が自信をもって表現活動ができるようにする。 ◆ 作業が停滞している子どもについては、グループ以外の友達と交流し、イメージを広げることができるようにする。 ◆ 「言葉のパレット」にある言葉をもとに声かけをすることで、自分の思いに合ったものを自分で選択して表現することができるようにする。 <p>【知・技】自分の表したい感じが表れるように、墨や描材、用具の扱い方を工夫し、いろいろ試しながら表している。 (行動観察・発言・作品分析)</p>
あじわう	<p>3. 作った作品を見せ合い、互いの作品のよさについて交流し合う。</p>	<p>◎ <u>子ども数名の作品を取り上げて、イメージに合う墨の効果や描材の扱い方の工夫について発表させ、意見交換をするようにする。</u></p>

今日の学習で目指す「熱中する子どもの姿」

自分の作品と向き合い（自分を見つめる）、墨の濃淡、かすれ、にじみ、描線の動きや用具の扱い方をいろいろ試行しながら、材料を効果的に使って自分のイメージした「墨の世界」を表現する子ども。

<場の設定>

